

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

低学年・特別支援学級

学校のすぐ前を流れる大栗川、学区域にある多摩川の学習を実施した。川の様子や生き物を課題にし、川の観察や生き物採集（ガサガサ体験）等の調査を行ってきた。調査を通して、川にたくさんのごみが捨てられていることに気づき、新たな課題として、川の環境についても調べることになった。新たな課題をもち、追究していく力の出発点として、有意義な活動になった。また、一番の成果は、自分たちの住む地域の川に親しみをもち、それをいつまでも残したいという思いを子ども達自身がもてたことである。

3年生

東寺方探検隊として、学校や地域など普段生活している中で身近な地域に関心をもち調べることで、この地域の自然の豊かさや地域の文化を実感できる取り組みを行った。まず、課題をつかむ段階では、理科の生き物の観察から得た力を生かし、課題の発見へとつなげた。また、課題の追究に関しては、情報をもっていそうな人（先生、地域の人、家族）に話を聞いたり、自分の目で観察をしたりするなど、子ども自身の主体的な行動へとつなげることができた。さらに、自分たちの生きる地域のお店や建物についてのフィールドワークを行った。活動全般を通して、自然や人的な環境に関する様々な問題を理解し、積極的に働きかける態度や問題を解決する力を培うことができた。

4年生

総合的な学習の時間「エコ探検隊」として、ごみ・水・食品の三観点からエコについて考えた。ごみについては、社会で多摩市のごみの現状や埋立地の現状を知り、ごみを減らす方法や資源を有効に使うためにはどのような方法が有効なのかを考え他学年に提案することができた。また、水についても社会の学習で水が蛇口に届くまでには多くの時間や手間がかかっていることを学び、水を大切に使うという意識を育てることができた。水の学習については、水道キャラバンを校内で開催し、水をきれいにする過程を体験学習を織り交ぜながら学習することで、自分たちの使った水がどのように海や川に戻っているのかを深く理解することができた。これらのことを踏まえて、家庭でもできる節水方法やその方法でどのくらい節水できるのかを他学年に伝えることができた。さらに、食品ロスについても多摩市の栄養教諭の方をゲストティーチャーとしてお招きし、給食の残菜がどのように処理されているのか、どのくらいの残滓が出ているのかを教えていただいた。また、世界には多くの地域で食べたくても食べることができない子どもや大人が多くいることも同時に教えていただいた。そのことを表やグラフ、写真等を使って他学年に発表を行った。4年生は、課題の追究後の発信に力を入れて取り組み、多面的に考えたり整理し、他者に発信する力やコミュニケーション力が高めることができた。

5年生

本校に広がるおよそ600㎡の学校田を生かした稲作づくりを通して、学校の周りにある豊かな自然を守ろうとする意識・意欲をもたせることができた。実際の農作業を通して、これからの農業や食について自ら課題をもち、課題について主体的に解決することを通して、多面的に考えたり解決の道筋を計画的に考えたりする力を身に付けることができた。本校の稲作に使用する水源は、敷地内にある

学校林「ひのきの森」からの湧き水であり、全て学校の周りにおける自然によって稲作を行えるという絶好の場所である。その環境の中で、日本人の食の中心であるお米を育て、収穫し、調理をすることを通して、伝統的に受け継がれてきた栽培方法や農家の人々の苦勞を知り、他者と協力する態度や自主的に行動する態度、つながりを大事にすることを学ぶ機会となった。さらに、米を使った日本料理に加え、世界の米料理にも視点が向き、国際理解の一端を担う学習にもなった。

6年生

1年間を通して、本校の学校林である「ひのきの森」についての学習を行った。第一段階として6年生が自らひのきの森の魅力を見い出すことを重視し、フィールドワークを行った。ひのきの森を調査した際に、どんな動植物がいるかを調べ、貴重な植物の宝庫であること、5年の田んぼにも使われている湧き水があること、などを見つけることができた。調査結果をまとめる際には、iPadを活用し必要な情報を収集したり、説得力あるまとめにするために写真に収めたりすることにも重点をおいた。また、地域の有識者をお招きし、様々な疑問の解決を図った。第二段階は発信である。調査しまとめた「ひのきの森の魅力」を林野庁主催の「学校の森子どもサミット夏大会」でプレゼンテーションを用いて発信をした。また、11月に行われた学習発表会では、6年生全員が「ひのきレンジャー」になり、在校生や保護者に対して、実際に「ひのきの森」を案内しながら「ひのきの森」の自然を中心に伝えることができた。第三段階は、「ひのきの森」の保全と魅力アップである。もっと楽しめる「ひのきの森」にするには、2050年にも「ひのきの森」が残されているために、自分たちは何ができるかを考え、実践に移した。環境整備や憩いの場としてのベンチ作り、多くの生き物が集う場所にという願いからの巣箱設置などが実際の成果としてあげられる。1年間という長い取り組みであるが、特に課題に対しての解決策を多面的・総合的に模索し、具体的な実践を通して大きな成果を上げることができた。

以上、拙い活動ではありますが、ご報告させていただきます。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）